

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 多治見北高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和8年2月3日(火) 14:30～16:30
- 3 開催場所 多治見北高等学校小会議室
開催にあたり、委員による総合的な探究の時間の見学を実施した
- 4 参加者

会 長	田口 尚之	愛知教育大学教授
委 員	水野 知久	東濃子ども相談センター所長
	宮嶋 浩	バロー文化ホール館長
	櫻井 ともみ	PTA副会長
	櫻井 淳子	会社員・元PTA役員
	灰塚 恭子	主婦
学 校 側	田中 誠二	校長
	酒井 里美	事務部長
	市川 学	教頭
	稲垣 真太郎	教務主任
	加藤 大	生徒指導主事(欠席)
	上田 泰彦	進路指導主事

5 会議の概要(協議事項)

(1) 学校評価アンケートについて

意見1: 生徒向けアンケートをメールで配信し、各自で回答する形式とした結果、回答率が上がらず、SHRで一斉に回答する形式でやり直したとのことであった。大学でも、学生に任せるとアンケートに回答しないことがある。メールを確認しない学生もいるため、大学においても授業中にアンケートを回答させている。

(2) 今年度の取組状況、成果と課題、来年度に向けての改善方策等について

意見1: 令和8年1月31日(土)に本校で実施したDXイベントを見学したが、非常にすばらしかった。(複数)

意見2: DXイベントでは、多治見修道院の取り壊し計画をきっかけに、地域課題に目を向けることができていた。構成もすばらしく、多治見修道院からフランスへと視点が移行するなど、ローカルな視点からグローバルな視点への発展が見られた。また、プロジェクトマップでは、過去から未来へとつながる表現もなされていた。このような、学力では測れない「数値に表れない部分」への取組みは大切であり、生徒の今後の人生においても、興味・関心をどのように広げていくかが重要となる。

意見 3 : 大学入試が多様化しており大学側も大変であるが、高校も様々な点で大きく変化しており、苦勞が多いと推察される。教職員のワークライフバランスが心配である。また、生徒は「先生がなんとかしてくれる」と考えている様子も見られるが、大学ではある程度突き放して、自分で考えさせるようにしている。

意見 4 : 学校で問題が生じた際、担任等が保護者と密に連絡を取る体制が整っており、非常によい。

意見 5 : 不登校生徒等は一定数存在するが、学校の規模を考えると特に多いわけではない。不登校生徒等を支援する体制は整っているため、今後も継続してほしい。

(3) 総合的な探究の時間について

意見 1 : 1 年生の沖縄研究と 2 年生の自由研究の発表を見学したが、これはプレゼンテーションの仕方を指導することが目的と考えてよい。

⇒ グループや個人によって発表のレベルに差があった。1 年生には後期の探究活動開始にあたり、探究の進め方について説明を行った。「どのような問いを立てるか」が最も重要であるが、その点が不十分であるため、今後指導を強化していく。

6 会議のまとめ

第 3 回学校運営協議会では、今年度の取組みについて、各委員から多様な視点で意見を得た。来年度の学校運営については、学校運営協議会の意見を含めた学校関係者評価を踏まえ、改善を図っていく。